

JSRP 薬剤師卒後研修プログラム 自己評価調査票 (Ver.2019.03.31)

病院名 神戸大学医学部附属病院

【評価欄】

小項目ごとにプルダウンで「a」「b」「c」を入力して頂くと、
中項目の評価として「適正」「要検討」「要改善」が表示されます。

【コメント欄】

中項目が「要検討」「要改善」の場合、および、小項目が「b」「c」の場合は、
指摘事項をご記載ください。

Pg.1	卒後研修病院としての役割と理念・基本方針		
Pg.1.1	卒後研修の理念・基本方針が確立されている		適正
Pg.1.1.1	理念・基本方針が明文化されている	a	・「神戸大学医学部附属病院 薬剤師レジデントプログラムの概要」に研修理念と基本方針を明記している。なお、当院では神戸大学医学部附属病院薬剤師レジデントプログラム（2020年度開始）と神戸大学・神戸薬科大学薬剤師レジデント教育プログラム（2009年度開始）が存在するが、双方とも研修理念と基本方針は同様である。
Pg.1.1.2	院内および研修協力施設間で周知・徹底されている	a	・神戸大学医学部附属病院薬剤部のホームページに、「神戸大学医学部附属病院 薬剤師レジデントプログラムの概要」とともに研修カリキュラム等の詳細な情報を公開し、広く社会に対して周知をしている。 ・薬剤師レジデント募集の際には、募集ポスター（パンフレット）に神戸大学医学部附属病院薬剤部のミッションやレジデントプログラムの概要を明記し、プログラムの趣旨を理解して応募できるよう配慮したうえで各大学薬学部に郵送している。また、病院ホームページや兵庫県病院薬剤師会ホームページにも募集要項を掲載している。 ・院内では、病棟業務を実施するために特に看護部門の協力を得ている。
Pg.1.1.3	必要に応じて見直されている	a	・「神戸大学医学部附属病院 薬剤師レジデントプログラムの概要」の初版は2021年12月に作成しており、適宜見直されている。
Pg.1.2	卒後研修病院としての役割が明確になっている		適正
Pg.1.2.1	卒後研修における役割・機能の範囲が適切である	a	・当院は先進医療・高度医療など専門的な医療を提供する「特定機能病院」であり、「地域がん診療連携拠点病院」「災害拠点病院」「エイズ治療拠点病院」「外国人患者受け入れ医療機関認証」「がんゲノム医療拠点病院」等に指定されている。また、薬剤部は日本医療薬学会の「医療薬学専門薬剤師」「がん専門薬剤師」「薬物療法専門薬剤師」地域薬学ケア専門薬剤師」研修施設、日本病院薬剤師会の「がん薬物療法専門薬剤師」「妊婦・授乳婦専門薬剤師」研修施設、日本臨床薬理学会「認定薬剤師」研修施設等に指定されており、学会等から認定を受けて認定薬剤師・専門薬剤師・指導薬剤師が常時、複数名在籍している。したがって、薬剤師レジデントプログラムにしたがった研修を提供し、適切な指導を行うことが可能と考えている。
Pg.1.2.2	卒後研修における役割・機能の範囲が地域住民、患者等に周知・徹底されている	a	・病院薬剤部のホームページにおいて、薬剤師レジデント制度の概要などについて情報公開をしている
Pg.2	卒後研修病院としての研修体制の確立		
Pg.2.1	研修管理委員会が確立している		要検討
Pg.2.1.1	研修管理委員会があり、総括責任者・委員の構成が明文化されている	b	・薬剤師レジデントプログラムは、薬剤部長がプログラムの作成と研修実施の統括責任者である。プログラム責任者は、薬剤部内に研修管理者（副部長）および薬剤師レジデントの各研修担当者を任命し、本プログラムを管理している（メンバーおよびその役割については「神戸大学医学部附属病院 薬剤師レジデントプログラムの概要」を参照）。研修管理者は、薬剤部外の院内各部署との連携や事務的な管理を担当している。現時点で、病院全体における薬剤師レジデント研修管理委員会は設置されていないが、薬剤部職員全体に対して、レジデント研修に関する報告や議論を適宜行っている。
Pg.2.1.2	研修管理委員会の規程がある	b	・病院組織として薬剤師レジデントの研修管理委員会は設置されていない。薬剤師レジデントプログラムの研修担当者の役割及びその構成メンバーについては「神戸大学医学部附属病院 薬剤師レジデントプログラムの概要」に明記されている。
Pg.2.1.3	研修管理委員会は定期的開催され、機能している	b	・薬剤師レジデントの研修に関する薬剤部の会議は適宜開催しており、業務の進捗や研修体制などについて打ち合わせを行っている。研修の進捗によっては追加研修を行うことも検討している。また、5-6月に個人の相性を考慮したメンター・プリセプターを配置し、毎月1回面談を行っている。9月に行っている薬剤部人事評価はレジデントも対象としており、各指導薬剤師等の意見を参考に、研修管理者が薬剤師レジデントに研修状況や研修態度などについてフィードバックしている。研修管理者は2-3月に年間のカリキュラムを振り返り、翌年度のカリキュラムの見直しを行い、プログラム責任者の了承を得て変更する。
Pg.2.2	卒後研修が組織的・計画的に実施される体制がある		適正
Pg.2.2.1	研修プログラム責任者が確保され、機能している	a	・プログラム責任者は薬剤部長が担い、研修管理者は副薬剤部長が担う。 ・研修管理者が年度初めに年間スケジュールを公開し、研修が実施できる体制を確保している。

Pg.2.2.2	必要な指導薬剤師が確保されている	a	・プリセプター、研修メンター、研究メンターを配置している。また、病棟では病棟担当薬剤師及び病棟担当主任が、中央業務では各部署の主任が指導薬剤師としてレジデントを指導している。
Pg.3	卒後研修病院としての教育研修環境の整備		
Pg.3.1	卒後研修病院としての教育研修環境が適切である	要検討	
Pg.3.1.1	処方せんに基づく調剤の研修が可能な環境が整備され、適切に実施されている	a	・調剤研修を2か月以上実施している
Pg.3.1.2	TPN や注射薬の無菌調製、抗がん剤のミキシング等の研修が実施可能な環境が整備され、適切に実施されている	a	・注射薬の無菌調製や抗がん剤のミキシングなどについて、2か月以上実施している
Pg.3.1.3	医薬品情報（DI）の整理・収集・加工・提供等の研修が実施可能な環境が整備され、適切に運用されている	a	・DI研修を1か月以上実施している
Pg.3.1.4	治療薬物モニタリング（TDM）が適切に行えるよう研修環境が整備され、適切に実施されている	a	・TDM研修を1か月以上実施している
Pg.3.1.5	入院患者の薬物療法および薬学的管理の研修が実施可能な体制が整備され、適切に実施されている	a	・病棟研修を最大11か月実施している。また、4月に新人教育セミナーとして病棟活動に必要な基礎的知識習得のセミナーを実施している。
Pg.3.1.6	手術室あるいは救急医療分野の研修が実施可能な体制が整備され、適切に実施されている	a	・OPE/ICU研修を1か月以上実施している
Pg.3.1.7	病診連携あるいは地域連携の体制が整備され、適切に実施されている	a	・病診連携のセミナーを年1回以上実施している。また、レジデント症例検討会（年9回）では、薬局の先生方の参加も可能としており、薬局薬剤師の先生方の意見を聞く機会を設けている。 ・DI研修において、保険薬局からのトレーシングレポートの集計やプロトコルに基づく疑義照会について指導を実施している。
Pg.3.1.8	保険薬局等における研修体制が整備され、適切に実施されている	b	・保険薬局における研修については実施しておらず検討中である。分院である神戸大学医学部附属病院国際がん医療・研究センター（ICCRC）での研修を現在検討している。
Pg.3.1.9	レポートを求められている症例が確保されている	a	・レジデント症例検討会を年9回（そのうち自身の発表は4回）開催しており、症例を提示できるよう病棟担当薬剤師等の協力を得ている。また、毎月1症例（レジデント2年目は2症例）の症例レポートを研修メンターや研修管理者・プログラム責任者に提出することになっている。
Pg.3.2	患者の診療に関する情報を適切に管理している	適正	
Pg.3.2.1	専任の診療情報管理者が配置されている	a	・院内に診療情報管理士が11名配置されている（2022年4月）
Pg.3.2.2	診療に関する諸記録の管理が適切になされている	a	・診療録は電子カルテシステムを用いており、専門の部署（医療情報部）によりセキュリティ・データ保管について適切に管理されている。また、診療情報管理士により定期的にチェックが行われている。 ・カルテの記載内容については、他職種による相互チェックなども行っている。
Pg.3.3	医療に関する安全管理体制の確保がなされている	適正	
Pg.3.3.1	安全管理者を配置している	a	・医療の質・安全管理部責任者、医薬品安全管理責任者、医療安全専従者を配置している。
Pg.3.3.2	安全管理部門がある	a	・院内に安全管理部門（医療の質・安全管理部）が設置されている ・薬剤部内に医療安全専従者が配置されている
Pg.3.3.3	卒後研修における安全確保のための活動が行われている	a	・院内の医療安全に関する職員必修講習の受講を必須としている（年2回）。 ・薬剤師レジデントもインシデントレポートを記載する機会がある。 ・月に1度の薬局会（薬剤部内の定例会議）では、薬剤部内で発生したインシデントの共有や、医療安全専従者による注意喚起などを行っている。 ・研修前に、ワクチン接種などの規定がある（麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、B型肝炎）
Pg.3.3.4	薬剤師レジデントが関与する医療事故発生時の対応体制が確立している	a	・院内のマニュアルに明記されており、薬剤師レジデントも職員と同様の手順となる。 ・医療事故発生時の対応手順については、「医療スタッフポケットマニュアル」に記載されており、薬剤師レジデントを含めた全職員が常時携帯している。 ・薬剤師賠償責任保険に加入している。
Pg.3.3.5	組織的に施設関連感染対策が行われている	a	・院内に感染制御部が設置されており、薬剤部からも1名専従で従事している ・抗菌薬適正使用チームが活動している（カンファレンスにも参加） ・感染制御部専従薬剤師は、感染対策に関する情報を適宜薬剤部内で共有している。
Pg.3.3.6	患者相談窓口がある	a	・患者支援センター部門に総合相談窓口があり、患者相談等を行っている。
Pg.3.4	卒後研修をサポートするための設備が整備されている	適正	

Pg.3.4.1	図書・雑誌・インターネット利用環境が整備されている	a	・薬剤部内に、業務に必要な各種書籍・雑誌が配架されており、常時間閲覧可能である ・インターネット環境も整備されており、医学中央雑誌WEB版、PUBMED、メディカルオンライン、UpToDateなどが利用可能である。 ・医学部専用の図書館が併置されており、書籍のみならず、多数の契約雑誌の閲覧が可能である
Pg.3.4.2	薬剤師レジデントのために病院内での個室性が配慮されている	a	・レジデントも薬剤部職員と同様、デスクワークを行うための薬剤部内の共用スペースを利用可能としている。 ・パーソナルロッカーが与えられている。
Pg.3.4.3	研修用ビデオ等の機材が活用されている	a	・オンデマンドで院内の教育・講演等が視聴可能である。 ・薬剤部内の業務については、「薬剤部ポータル」（院内でのみ視聴可能）内に動画マニュアルを準備しており、これらを用いて説明を行っている。
Pg.4	薬剤師レジデントの採用・修了と組織的な位置付け		
Pg.4.1	薬剤師レジデントの募集・採用の方法が適切である	適正	
Pg.4.1.1	薬剤師レジデントの公募規程がある	a	・年1回、ホームページ等による公募の際、公募規定を提示している。 ・各大学薬学部、に、公募規定を記載した募集要項を案内している。
Pg.4.1.2	研修プログラム等が公表されている	a	・薬剤部のホームページで公表している。
Pg.4.1.3	薬剤師レジデントの募集および採用が計画的になされている	a	・公募による採用試験を年1回（4-5月）に実施している ・新規のレジデント採用枠は毎年2-3人のため、その人数を選抜している。
Pg.4.1.4	薬剤師レジデントの採用試験が適正に行われている	a	・公募による採用試験を実施している。 ・書類による第一次選考後、第一次選考合格者に対して第二次選考として小論文と面接を実施している。
Pg.4.2	薬剤師レジデントの研修規程が明確である	適正	
Pg.4.2.1	薬剤師レジデントの研修規程がある	a	・研修規定は「神戸大学医学部附属病院 薬剤師レジデントプログラムの概要」に記載されている。 ・神戸大学医学部附属病院では、薬剤師レジデントは「特定薬剤師レジデント」として規定されており、就業規則などは職員と同様である。
Pg.4.2.2	薬剤師レジデントが患者を担当する場合の役割が明示されている	a	・薬剤師レジデントは「神戸大学医学部附属病院 薬剤師レジデントプログラムの概要」に記載されている通り、研修スケジュールに従って指導薬剤師の指導のもとでカリキュラムに則った研修を行う。カリキュラムの内容については、Kobe-PRS（到達度評価表）に記載されている。 ・患者指導については、Kobe-PRSに基づき研修を行い、指導薬剤師による一定期間の指導後に単独で実施している。なお、薬剤管理指導記録については、薬剤師レジデントの記録内容を病棟の指導薬剤師が承認している。
Pg.4.2.3	薬剤部内および病棟、手術室、救急室、外来、当直等における研修実務に関する規程があり、支援及び指導体制が明文化されている	a	・Kobe-PRSにより、各部署の研修実務に関する項目が明示されている。薬剤師レジデントは当直は行わないので記載はない。
Pg.4.3	薬剤師レジデントに対する適切な処遇が確保されている	適正	
Pg.4.3.1	薬剤師レジデントの位置付け・処遇に関する規程が明確になっている	a	・神戸大学医学部附属病院においては、薬剤師レジデントは「特定薬剤師レジデント」として別に規定されており、就業規則などは職員と同様である。
Pg.4.3.2	定期的に健康管理が行われている	a	・当院に勤務する職員は、薬剤師レジデントを含む全職員が年に1回の健康診断を必須としている。その他、必要な予防接種も受けている。
Pg.4.3.3	当直・時間外研修の際の処遇に配慮がなされている	a	・1年目は夜勤や当直、日勤などを行わないことをプログラムに明記している。 ・2年目については月に1回程度、日勤研修を行うことになっており、代休が付与される。 ・研修については、原則、業務時間内に終了することを前提としており、時間外については業務扱いであれば超過勤務として取り扱い、自己学習であれば報酬は発生しない。
Pg.4.4	卒後研修の修了手続きが適切である	適正	
Pg.4.4.1	研修管理委員会に薬剤師レジデントごとの評価・報告が適切に行われている	a	・研修管理者は月に1回、薬剤管理指導室（病棟）教育グループ（Kobe-PRS担当）の薬剤師から報告される各薬剤師レジデントのKobe-PRSを確認し、進捗を確認している。
Pg.4.4.2	卒後研修の修了証が適切に発行されている	a	・研修終了後に修了証を発行している。
Pg.4.4.3	修了が認められない場合の手順が確立している	a	・「神戸大学医学部附属病院 薬剤師レジデントプログラムの概要」に研修の修了基準を明記しており、それに満たないものは修了と認めないことが明記されている。 ・未修了の場合、修了証は発行せず、履歴上は「神戸大学レジデント」として勤務実績を記載することを許可している。
Pg.4.5	個々の薬剤師レジデントに関する研修記録等が整理・保管されている	適正	

Pg.4.5.1	研修を受けたすべての薬剤師レジデント（中断者を含む）の記録が整理・保管されている	a	・レジデントファイルとして症例レポート、研修レポート、Kobe-PRSなどの記録を研修管理者が管理・保管している。
Pg.4.5.2	記録の内容が適切である	a	・研修中はKobe-PRSに基づき、各項目の達成日（自己評価）と、各部署の薬剤師による達成日（他者評価）が記載されており、研修メンターが適宜フィードバックを行っている。
Pg.5	研修プログラムの確立		
Pg.5.1	研修プログラムが適切に策定されている	適正	
Pg.5.1.1	理念・基本方針に沿った研修プログラムである	a	・理念・基本方針に準拠し、研修プログラムを作成している
Pg.5.1.2	研修プログラムには必要事項が明示されている	a	・本研修プログラムの目標は、薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂版や専門薬剤師の養成研修コアカリキュラム等から引用して作成した。 ・Kobe-PRSはルーブリック評価の形式を採用しており、各個人で評価の基準が大きく異なるように作成した。
Pg.5.1.3	薬剤師レジデントが積極的に研修プログラムを選択し研修に取り組む体制が確保されている	a	・一部選択プログラム（病棟選択）を取り入れ、自発的な研修を実施している。
Pg.5.2	研修プログラムが研修プロセス（計画、目標、方略、評価）に沿って実施され、評価されている	適正	
Pg.5.2.1	研修項目ごとに内容に適した研修期間（スケジュール）が設定され、目標を達成できるよう実施されている	a	・最初の1か月の中央業務後は、中央業務と病棟業務を適宜織り交ぜることで、各部署での業務内容を忘れないように配慮している。 ・最後の3か月は一つの病棟に3か月間毎日研修を行うことで、病棟業務の仕上げを行うことにしている。
Pg.5.2.2	研修プログラムの評価が行われている	a	・年度末や面談時に薬剤師レジデント、プリセプター、メンター、指導薬剤師等から聞き取りを行い、翌年のプログラムに反映させている。（例：第3クールは、薬剤師レジデントは医学部4年次臨床医学基本実習の補助があり、バランスを考慮してチーム医療を第3クールから第4クールに移動した）
Pg.5.3	医療人として必要な基本姿勢・態度に関する研修がプログラムに適切に組み込まれている	適正	
Pg.5.3.1	基本的姿勢・態度を身につけられる内容が組み込まれている	a	・レジデントを含めた新入局員の講義で「医療人としての心構え」等の講義を行っている ・当院は病棟だけでなく外来部門（患者支援センター[入院支援]、通院治療室）にも薬剤師を配置しており、様々な部門の研修を通して、薬剤師業務の基本的な姿勢・態度が身につけられるプログラム内容になっている。チーム医療も糖尿病教室、インфекションコントロールチーム（ICT）、栄養・輸液サポートチーム（NEST）、緩和ケアチーム（PCT）等の研修枠が1年目にあり、多職種との連携について研修できる。
Pg.5.3.2	患者および家族との面談が組み込まれている	a	・当院は薬剤師を病棟ならびに外来部門（患者支援センター[入院支援]、通院治療室）に配置しており、薬剤師レジデントも同様に病室あるいは外来面談室において患者および家族と面談を行っている。
Pg.5.3.3	インフォームド・コンセントについて身につけられる内容が組み込まれている	a	・当院は薬剤師を病棟ならびに通院治療室に配置しており、投薬開始前に服薬指導を実施している。薬剤師レジデントは臨床現場でインフォームド・コンセントの知識を習得し実践できるプログラムとなっている。 ・「臨床研究推進セミナー」でインフォームド・コンセントのセミナーを行っており、自由に参加が可能である。
Pg.5.3.4	安全管理（安全な医療・感染対策など）に関する研修がプログラムに適切に組み込まれている	a	・レジデントを含めた新入局員の講義で医療安全に関する講義を行っている。 ・医療安全管理マニュアル、医薬品の安全使用のための業務手順書、院内感染対策マニュアルなどが整備されている。 ・院内の医療安全に関する職員必修講習の受講を必須としている（年2回） ・薬剤師レジデントもインシデントレポートを記載する機会がある ・月に1度の薬局会（薬剤部定例会議）において、薬剤部内で発生したインシデントの共有や、医療安全専従者による注意喚起などを行っている。
Pg.5.3.5	医療の社会性、倫理性に関する研修がプログラムの中に適切に組み込まれている	a	・レジデントを含めた新入局員の講義で臨床研究の進め方の講義を行っており、倫理性に関する内容を組み込んでいる。 ・臨床研究推進セミナー（年に複数回実施）への参加を促している。また、スキルアップセミナーにおいて、倫理指針等の講義を行っている。 ・早期からチーム医療に参加することで、他職種と協調しチーム医療を円滑に遂行することで社会性を育むことが出来るようにしている。
Pg.5.3.6	症例呈示と意見交換を行う研修が組み込まれている	a	・レジデント症例検討会を年9回（そのうち自身の発表は4回）開催しており、各薬剤師と意見交換する場を作っている。
Pg.5.3.7	地域医療（病診連携、薬薬連携、地域包括ケア）に関する研修が組み込まれている	a	・当院薬剤部主催の勉強会を定期的で開催しており、薬局薬剤師の方も参加していただき意見交換している。また、時には薬剤師レジデントに発表してもらった機会も設けており、その際にアンケートなどを実施して薬局薬剤師の意見を取り入れることもしている。 ・DI研修において保険薬局からのトレーシングレポートの集計やプロトコールに基づく疑義照会について指導を実施している。

Pg.5.4	薬剤師として経験すべき調剤・製剤・服薬指導・薬物治療管理に関する研修がプログラムに適切に組み込まれている	適正	
Pg.5.4.1	薬剤師としての基本的臨床能力が身につけられる内容が適切に組み込まれている	a	・病院薬剤師の業務全般が研修に組み込まれている
Pg.5.4.2	医薬品の適正使用のための基本的手技が組み込まれている	a	・DI研修において、Kobe-PRS（研修目標：医薬品の適正使用に係る医薬品情報の収集、評価、周知ができる）に明示されている。 ・インスリン製剤や吸入のデバイスの使い方等について、病棟研修やチーム医療（糖尿病教室など）で習得が可能である。
Pg.5.4.3	治療薬物モニタリング（TDM）が組み込まれている	a	・TDM室で、TDM研修を1か月以上実施しており、処方提案などについて習得する
Pg.5.4.4	標準的薬物療法（ガイドライン等）に関する研修が適切に組み込まれている	a	・DI研修において組み込まれている（Kobe-PRS「医薬品情報の収集」）。また、病棟においても研修中にOJTとして実施している。 ・レジデント症例検討会では、各症例における治療が、治療ガイドラインに準じているかなどを評価し、その治療の妥当性などについて検討するよう指導している。
Pg.5.4.5	頻度の高い症状・病態・疾患が組み込まれている	a	・内科系、外科系のすべての病棟研修を含めており、レジデントが担当する対象疾患が偏らないよう、病棟担当者が調整して割り当てている
Pg.5.4.6	特定の医療現場の経験が組み込まれている	a	・ICU/HCU、OPE/ECU、患者支援センター[入院支援]、通院治療室（外来）、総合周産期母子医療センター、チーム医療などの研修を設けている。
Pg.5.4.7	薬剤師記録を適切に記載するための研修が組み込まれている	a	・新人教育セミナー（薬剤師レジデントも参加）において、持参薬鑑別書の作成や薬剤管理指導記録の作成などについて指導薬剤師が病棟研修前に講義を行い、適宜フォローアップしている。診療録の記載方法はPOSに基づく記載としている。 ・病棟研修でもOJTとして実施し、レジデントによる薬剤師記録は病棟薬剤師が確認している。
Pg.5.5	問題解決能力を醸成する研修がプログラムに適切に組み込まれている	適正	
Pg.5.5.1	問題対応能力を習得する研修（EBMの実践・生涯自己学習習慣）が組み込まれている	a	・薬剤部で実施しているスキルアップセミナーを通じて、EBMに基づく薬物治療の実践の能力を習得している。 ・医学部3年次「薬理学および臨床薬理学」のPBL演習補助を通じて、各症例に対するEBMに基づいた薬物治療を学習している。
Pg.5.5.2	問題解決能力を醸成するための指導体制があり、具体的な取り組みが行われている	a	・臨床研究を通じて、問題解決能力を醸成している ・スキルアップセミナーにおいて、臨床研究の講義を実施している
Pg.6	薬剤師レジデントの評価		
Pg.6.1	薬剤師レジデントを評価するシステムが確立され、実施されている	適正	
Pg.6.1.1	評価者が明確であり、その構成が適切である	a	・Kobe-PRSに従い、指導薬剤師が評価している。メンターはKobe-PRSをもとに、研修の進捗などを確認している。また、研修管理者が月に1度各レジデントの研修進捗について、Kobe-PRSを確認している。
Pg.6.1.2	評価項目・基準が明確で全体的な項目の構成が適切である	a	・Kobe-PRSは各部署における研修内容について、項目ごとに具体的な内容を提示しており、ルーブリックによる評価を行っている。
Pg.6.1.3	評価者・評価項目が薬剤師レジデントに周知されている	a	・レジデントを含めた新入局員の講義で、薬剤師レジデントに対し研修の進め方としてKobe-PRSの説明や評価・評価項目を説明し、Kobe-PRSを配布している。
Pg.6.1.4	薬剤師レジデントの評価が適切に行われている	a	・Kobe-PRSによる評価を、研修管理者が管理・統括する体制が構築されている。研修管理者は適宜プログラム責任者に情報をフィードバックしている。
Pg.6.2	薬剤師レジデントごとに評価結果に応じたフィードバックが適切になされている	適正	
Pg.6.2.1	評価結果が報告され、適切な指導がなされている	a	・薬剤師レジデントはKobe-PRSをもとにメンターによる進捗の確認や指導・フィードバックなどがなされる。また、研修管理者による面談も2か月に1度行うことにしており、Kobe-PRSによる研修の進捗やメンター・各部署管轄の薬剤主任の意見をフィードバックしている。
Pg.6.2.2	研修実績が基準に満たない場合の対応が決められている	a	・明記されていないが、研修管理者は薬剤師レジデントの研修の状況などについて研修メンターや各部署管轄の薬剤主任から意見を聴取し、必要に応じ指導を行っている。また、不足している部分については追加の研修も実施している。
Pg.7	薬剤師レジデントの指導体制の確立		
Pg.7.1	指導体制と指導者が明示されている	適正	

Pg.7.1.1	研修分野ごとに指導体制と指導薬剤師、その他の指導者が明確になっている	a	・当院では、薬剤師レジデントに対しプリセプター、研修メンター、研究メンターを配置している。その役割については「神戸大学医学部附属病院 薬剤師レジデントプログラムの概要」に明記されている。 ・当院における各研修分野ごとの指導体制については、各部署の主任もしくはが責任を持って指導している。病棟に関しては各病棟担当薬剤師が主に指導に当たっており、適宜病棟担当の主任と連携している。
Pg.7.1.2	指導薬剤師の役割が明示され、実践されている	a	・研修メンターの役割は、「神戸大学医学部附属病院 薬剤師レジデントプログラムの概要」に明記され実践されている。各研修分野ごとの指導体制については、各部署管轄の薬剤師主任が責任も持って指導している。
Pg.7.1.3	適任の指導薬剤師が指導を行う体制が確保されている	a	・研修メンターは原則各種認定・指導薬剤師が担う方針としている。各研修分野ごとの指導体制については、各部署の主任が責任も持って指導している。病棟に関しては各病棟担当薬剤師が主に指導に当たっているが、経験年数が浅い場合、適宜病棟担当の主任と連携し指導している。
Pg.7.1.4	薬剤師以外（医師、看護師、臨床検査技師等）の指導者が指導を行う体制が確保されている	a	・薬剤師レジデントは各チーム医療研修も行うため、医師、看護師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士など様々な職種から指導を受けることができる。
Pg.7.2	薬剤師レジデントが行う調剤、服薬指導、薬物治療管理等をチェックする体制がある	適正	
Pg.7.2.1	薬剤師レジデントが行う調剤、服薬指導、薬物治療管理などについて、指導薬剤師の指導を受ける体制が具体的に決められている	a	・調剤室、薬品管理室および通院治療室では、薬剤師レジデントの調剤または調製後に各部署の主任の責任のもと、薬剤師が監査を行っており、レジデントの行為に対するチェック体制が整っている。 ・病棟では、病棟担当の主任と連携しながら各病棟担当薬剤師が主に指導に当たっている。
Pg.7.2.2	薬剤師レジデントの記載した薬剤師記録を適切にチェックし指導する仕組みがある	a	・薬剤師レジデントの記載した薬剤管理指導記録は、各病棟担当薬剤師が当院の薬剤管理指導記録相互チェック表に準じて内容をチェックし、問題点や修正すべき点について指摘をしている。
Pg.7.2.3	研修の記録について指導し、評価される体制がある	a	・薬剤師レジデントは、毎月Kobe-PRSの自己評価に基づき研修メンターによるフィードバックを受けている。また、研修部署における指導薬剤師からも評価も受けている。 ・薬剤師レジデントは症例報告書の作成が義務付けられており、研修の中で特に薬学的介入を行った症例について記録をしている。また、その記録については病棟担当薬剤師や研修メンターが記載について指導を行っている。
Pg.7.3	指導薬剤師の評価が適切に行われている	要検討	
Pg.7.3.1	評価方法が明確である	b	・指導薬剤師に対する評価は行っていないが、指導薬剤師は薬学部実務実習において実習生への指導経験があるものとしている。また、指導薬剤師の薬剤師レジデントに対する指導内容については、Kobe-PRSの達成度などをもとに研修管理者が月に1度確認しており、不足分がある場合は直接指導薬剤師に確認している。指導薬剤師の指導方法や態度が適切かについては、メンターや研修管理者による薬剤師レジデント面談で確認している。 ・しかしながら、指導薬剤師に対するレジデント側からの評価などはないので、今後検討していきたい。
Pg.7.3.2	評価結果に対する検討が行われ、活用されている	b	・Pg.7.3.1において、研修管理者が指導薬剤師として不十分であると判断した場合は、その旨を本人に伝えようとして指導内容や指導法などについての改善策を具体的に指導している。 ・しかしながら、本項目についてもレジデント側からの指導薬剤師に対する評価などをもとに行うことを検討していきたい。
Pg.8	修了後の進路		
Pg.8.1	修了者に対する進路相談の体制が適切である	適正	
Pg.8.1.1	専門薬剤師研修等、その後の研修が継続できるように配慮している	a	・複数の専門薬剤師研修の受け入れ施設として認定を受けている
Pg.8.1.2	修了者の就職を支援している	a	・全ての修了者の就職を支援している
Pg.8.1.3	本人の希望に沿うように就職の支援をした実績がある	a	・全ての修了者の希望に沿った形で就職できるように支援している
Pg.8.2	修了者の生涯にわたるフォロー体制がある	要改善	
Pg.8.2.1	システムが明文化され、適切に実施されている	c	・修了後のレジデントのフォローは、各採用施設に一任している。